

豚流行性下痢（PED）に関する Q&A

Q 1) PED（豚流行性下痢）とはどのような病気なのか？

A 1) PEDウイルスの感染により豚とイノシシが罹る届出伝染病で、水様性下痢や嘔吐が主な症状。

体力のない 10 日齢以下の哺育豚では高率に死亡する場合がありますが、成長した豚は発症しても回復し、また、感染しても発症しない場合もあります。

Q 2) PEDは人に感染するのか？

A 2) 人へは感染はしません。

豚に PED に罹った豚の肉を人が食べたとしても、感染することはありません。

Q 3) 自宅で犬を飼っているが、防疫対策は必要か？

A 3) 豚とイノシシ以外には感染しませんので、防疫対策は必要ありません。

Q 4) 市民が生活する上で気をつけることは？

A 4) 人に感染するわけではありませんので、冷静に受け止めてください。また、感染した豚の肉が流通することはありませんので、これまでどおりの食生活を続けていても問題ありません。

家畜はデリケートであり、人を介して病気を持ち込む可能性があるため、養豚農家をはじめ、畜産農家へは不用意に近づかないでください。

Q 5) PEDの発生農場で生産した豚肉は流通するのか？

A 5) 本病の感染拡大防止のため、発生農場に対して発症豚の出荷自粛が要請されますので、その間は流通することはありません。自粛期間はケースバイケースで、数日～1 ヶ月程度となります。

Q 6) 海外での発生状況はどうなっているのか？

A 6) 農林水産省のホームページをご参照ください。

Q 7) 国内での発生状況はどうなっているのか？

A 7) 農林水産省のホームページをご参照ください。

Q 8) 道内での発生状況はどうなっているのか？

A 8) 今年 4 月 14 日に道南の森町で発生し、その後、美瑛町、赤井川村、苫小牧市など、7 月 22 日現在で 23 例の発生が確認されています。

陽性確定日

1 例目	4/14	森町
2 例目	4/17	森町
3 例目	4/21	美瑛町
4 例目	4/22	美瑛町
5 例目	5/1	赤井川村
6 例目	5/7	栗山町
7 例目	5/7	森町
8 例目	5/7	上川町
9 例目	5/15	苫小牧市
10 例目	5/15	伊達市
11 例目	5/15	厚真町
12 例目	5/19	安平町
13 例目	5/19	帯広市
14 例目	5/27	旭川市
15 例目	5/27	森町
16 例目	5/27	帯広市
17 例目	5/27	旭川市
18 例目	5/30	鹿追町
19 例目	6/3	大空町
20 例目	6/13	森町
21 例目	6/20	森町
22 例目	7/18	余市町
23 例目	7/22	旭川市

Q 9) PEDはどこから侵入したのか、感染経路は？

A 9) 自然発生するものではないため、外部から侵入したことは確かですが、ルートは不明です。通常は感染した豚を飼養する農場から他の農場へ豚を移動させたり、発生農場から他の農場へと人や車両等を通じて感染が拡大すると考えられています。

口蹄疫のような空気感染や飛沫感染はせず、経口感染です。(感染した豚の糞便等にウイルスが含まれており、これを他の豚が直接的または間接的に摂取することで感染します。)

Q 10) キツネやカラスなどの野生動物が養豚農場へウイルスを持ち運ぶ可能性が考えられるが、防止策はあるのか？

A 10) 通常、豚舎はウィンドウレスという、外界と遮断されている構造となっており、豚舎内に野生動物が侵入することはありません。また、大きな農場では周囲に塀を回すなどの対応をしています。

Q 1 1) 野生動物を介しての伝染が考えられるが、市としてどのようにそれを防ぐのか？

A 1 1) (野生動物の隠れ家や繁殖の場にならないよう) 農場内の整理整頓や、野生動物のエサとなるものを農場周辺に置かないよう注意喚起を行っています。

Q 1 2) PEDの治療方法はあるのか？

A 1 2) 治療方法はありません。

哺乳豚は高率で脱水症状により死亡しますが、それ以外は自然治癒します。消毒の徹底や、ワクチン接種による予防が重要となります。

Q 1 3) PEDに有効な消毒薬は何か？

A 1 3) 畜産現場用に市販されている消毒薬であれば何でも有効です。

Q 1 4) 帯広市で発生した1例目と2例目では、豚の死亡率に大きな違いがあるのはなぜか？

A 1 4) 1例目の発生農場ではワクチン接種をしていなかったため、多くの哺乳豚が死亡しました。一方、2例目の発生農場ではワクチン接種をしていたため、被害が小さかったものと考えられます。

Q 1 5) 帯広市としてどのような対策を実施しているのか？

A 1 5) 生産者への様々な情報提供や消毒を始めとする飼養衛生管理の徹底について注意喚起を継続するほか、ワクチン接種の推奨や支援を実施しています。

また、一般市民に対してはホームページを活用するなど、正しい情報を発信し、不安の払拭に努めるよう対応しています。

Q 1 6) 今後、さらに感染が拡大していくのか？

A 1 6) 帯広市で発生した2例については、いずれも6月15日をもって沈静化となりました。今後も引き続き発生防止に努めます。

Q 1 7) Q 1 5でワクチン接種を推奨とあるが、具体的にどのように行うのか、その効果は？

A 1 7) 妊娠した母豚に2回のPEDワクチンを接種することで、体内で抗体を含む乳汁がつくられます。この乳汁を摂取することで親から子へと免疫が付与されます。ワクチン接種しない場合、哺乳豚の死亡率は8割程度とされていますが、ワクチン接種により、3割程度まで低下させることができます。

Q 1 8) Q 1 5でワクチン接種の支援とあるが、具体的にどのような内容か？

A 1 8) A 1 7のとおり、1回の出産につき、2度のワクチン接種が必要ですが、豚は1年で2回出産するため、年間で合計4回のワクチン接種が必要となります。市内に農場を持つ養豚経営者を対象として、このワクチン接種に係る費用について、2分の1を限度に助成するものです。

Q 1 9) どの段階をもって沈静化と判断するのか、その見込は？

A 1 9) 北海道が判断します。(新たな発症がみられなくなってから10日間の観察期間を経て臨床検査を実施し、問題がなければ沈静化となります。) 帯広市内で発生した2例については、6月15日0時をもって沈静化と判断されました。